

# 決め手は青森県産！



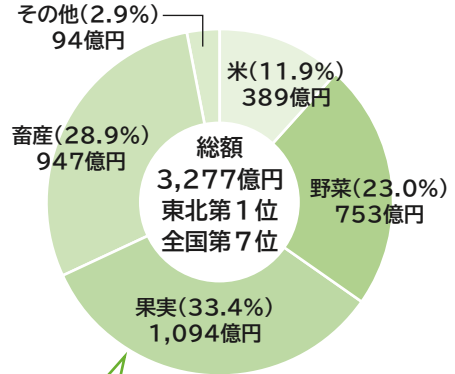
青森県の農業産出額は、18年連続で東北トップ！米・野菜・果実・畜産物がバランス良く生産されているのが特徴です。

また、日本の食料自給率(カロリーベース)が37%に対して、青森県は125% (令和2年度概算値)で全国第4位！おいしい農産物が豊富。

やっぱり、決め手は青森県産ですね。

※端数処理のため、グラフの割合の総計が100%にならない。

青森県の農業産出額 (令和3年)



果実は全国1位！

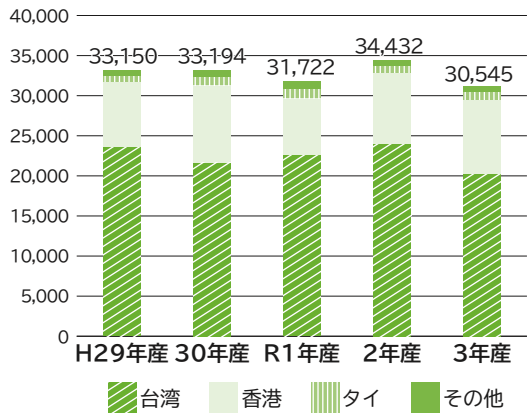


## 青森県のりんご

青森県のりんごは、全国の6割を占める約42万t (令和3年産)が収穫され、栽培面積(令和3年)、産出額(令和2年)、東京都中央卸売市場の年間取扱金額(令和3年)は、**全国1位**です。

日本から輸出されているりんごは、主にアジア地域向けで、その9割以上は青森県産と推計されています。

りんごの輸出量(全国) (t)



## イチおしミニあらかると

青森県で、ふだんの仕事として農業を行っている方(基幹的農業従事者)の平均年齢は65.4歳(2020年農林業センサス)で、全国で2番目に若いのが特徴です。

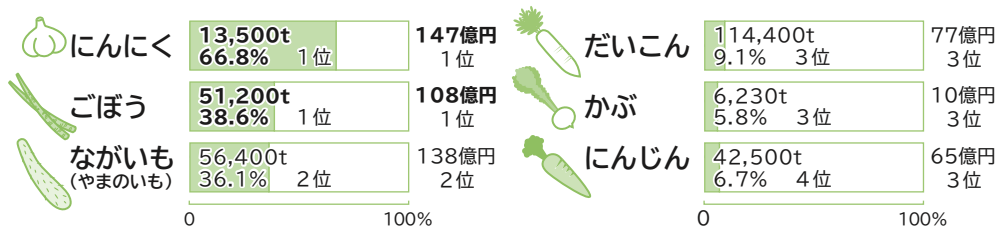
# 決め手は青森県産！



## 野菜・果実

青森県は、りんごなど果実のほかにも、にんにく、ごぼう、ながいも、だいこん、かぶ、にんじんなど野菜の生産も盛んです。（「りんご」は前ページをご覧ください。）

収穫量全国シェア・順位(R3年)、産出額・全国順位(R2年)



## 畜産

青森県はブロイラー（肉用若鳥）、採卵鶏の産出額が全国上位です。そのほか、ブロイラー飼養羽数は全国第4位です。

飼養羽数全国シェア・順位(R4.2.1現在)、産出額・全国順位(R2年)



## 魚介類

青森県のいか類の生産量及び産出額は全国第1位です。そのほか、ひらめ、ほたて貝、こんぶ類の生産量及び産出額は全国上位です。

生産量全国シェア・順位(R2年)、産出額・全国順位(R2年)



資料：野菜生産出荷統計、畜産統計、漁業・養殖業生産統計、農業産出額、漁業産出額（農林水産省）

## イチおしミニあらかると

### ジュノハート

青森県オリジナルのさくらんぼ「ジュノハート」は、24年の歳月をかけて開発・育成されました。大玉で糖度が高く、ハートの形が特徴です。家庭の幸福をつかさどるローマ神話の女神「ジュノ」とハート型の果実からその名が付けられました。6月下旬から7月頃に高級百貨店などで取り扱われます。



## イチおしミニあらかると

### 青森きくらげ

「青森きくらげ」は、乾燥させない「生」の販売が主体で、7月から10月頃まで多く出回ります。肉厚でコリコリと歯応えが良く、食物繊維やビタミンDなどの栄養価が豊富です。洗って石づきを取るだけですぐに調理ができ、どんな料理にも合います。いつもの料理にプラスするだけで、弾む食感がクセになります。



## イチおしミニあらかると

### 青い森紅サーモン

「青い森紅サーモン」は、県内のきれいな川や湧き水の中で、県産のにんにくやりんごを含むえさを食べて育ちます。その身は美しい紅色で、脂のノリが程よく抑えられ、うま味強いのが特徴です。生食用として凍結せずに出荷され、10月から翌年2月頃まで多く出回ります。



## イチおしミニあらかると

### 青天の霹靂

あおり米「青天の霹靂」は、晴れわたった空に突如として現れる稲妻のように、鮮烈な存在にしたいという想いがその名に込められています。粘りとキレのバランスがよく、上品な甘みが残るさっぱりとした味わいが特徴です。頬張れば口の中でハラリと心地よくほどけ、どんな食材とも相性がよく、おかずを選ばない頼もしさがあります。



# オンリーワンで行こう！元気な企業たち



青森県には、アイデアを原動力に、新しい技術を全国・海外へ発信し続ける元気な企業や団体がたくさんあります。共通するのは、「創意工夫で他社との差別化を図る」、つまり、オンリーワンで行こう！ということ。

## 広がる！あおり藍の可能性

## あおり藍産業協同組合(青森市)

新しい染色技術で染めたポロシャツがスペースシャトルの船内着として採用されたほか、藍の抗菌・防臭性を生かした消臭スプレーや、お茶やお菓子など多彩な商品を開発。また、独自の手法で抽出したあおり藍エキスに、インフルエンザウイルスの感染力を弱める効果があることが分かり、特許出願もしています。

## 世界トップシェアの微細合金粉末

## エプソンアトミックス(株)(八戸市)

スマートフォン、タブレット端末などの電子機器のほか、自動車や医療など幅広い製品の素材として使われている金属粉末を独自技術で製造し、世界トップシェアを誇っています。世界最先端のオンリーワン技術で、未来のものづくりを支えています。

## 人にやさしい医療を実現！世界トップシェアの医療機器

### 青森オリンパス(株)(黒石市)

胃、大腸の検査や治療に使われる内視鏡で、世界トップシェアを誇るオリンパスグループの生産工場です。内視鏡に必要な処置具製品の開発・製造を行っています。様々な製品があり、内科と外科を合わせ、その数は2,300種類にも及びます。



### 朝日インテック(株)(八戸市)

手首や足の付け根からカテーテルという細い管を挿入し、狭くなった血管を広げる治療に必要な製品の開発・製造・販売をしており、心臓血管治療用のガイドワイヤーでは世界トップシェアを獲得しています。現在は、世界110の国や地域へ製品を提供しています。

## 青森から世界へ！人々の暮らしを支える作業工具 (株)永木精機(六ヶ所村)

電気、ガス、水道、通信、鉄道など、私たちの暮らしには欠かせないライフラインを支える作業工具の製造・開発を行い、その技術と品質が国内及び世界30カ国以上に認められています。青森から世界の多くの人の暮らしの安全と安心を守り続けています。

## 業界初の技術で最優秀賞受賞！ Orbray(オーブレイ)(株)青森黒石工場(黒石市)

自動車・航空機等精密機械部品の小径穴内周面を非接触で短時間・高精度に測定できる機器「石英パイプ基準式内周面3D精密測定機」を青森黒石工場が基礎開発から商品化までを行い、「中小企業優秀新技術・新製品賞」中小企業庁長官賞(最優秀賞)を受賞しました。この測定機は、多くの大手企業の製造現場で採用されています。



## 青森発にチャレンジするIT企業 (株)フォルテ(青森市)

新型コロナウイルス感染症対策のため、AI(人工知能)カメラの技術を応用し、顔認識、マスクの有無検知、非接触体表温度検知が可能なシステムを開発。医療機関など多くの施設で使用されており、「ジャパン・レジリエンス・アワード(強靱化大賞)」STOP感染症大賞(最優秀賞)を受賞しました。また、準天頂衛星システム「みちびき」を活用した位置測位ソリューションは東京オリンピック2020のセーリング競技にも使用されました。

## 医療現場のシステム化を高品質に使いやすく マルマンコンピュータサービス(株)(弘前市)

勤務表作成や看護の支援システム「ナース物語」は、全国で使用されている医療機関系業務ソフトです。「血糖管理/血糖インスリン管理」等、医療安全と業務効率化を担うシステムで医療従事者を支援しています。近年では弘前大学COI研究推進機構との研究による健康増進支援サービス「健康物語」が企業/団体の健康管理に活用されています。

## 青森発の機能性素材「プロテオグリカン」を製造・販売 (株)角弘(青森市)

コラーゲン、ヒアルロン酸に並ぶ第三の機能性成分として注目されている「プロテオグリカン」を、化粧品や健康食品の原料として製造・販売。弘前大学との共同研究により、世界初の製造方法を確立しました。このほか、製造過程で生まれる「カルリン」は、植物サポート資材として環境保全と循環型社会に対応した製品となっています。

自然からの贈り物 再生可能エネルギー



再生可能エネルギーは、自然の力を利用したエネルギーで、地球温暖化の原因となる二酸化炭素をほとんど出さないエネルギーです。

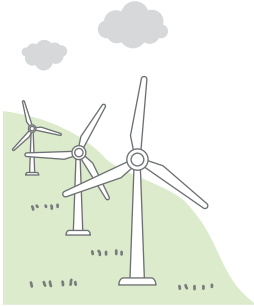
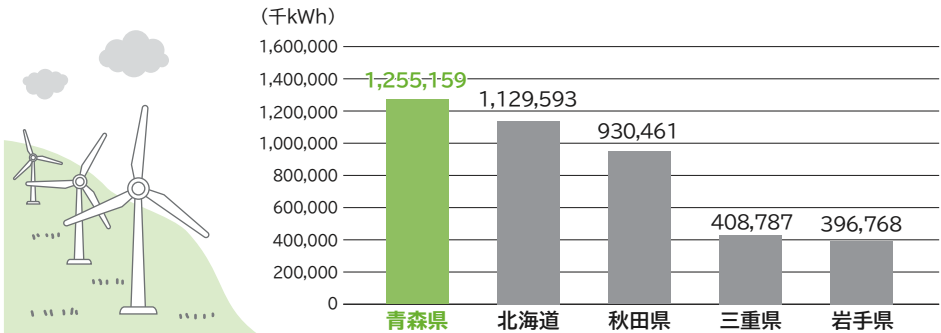
青森県は、豊かな自然に恵まれ、特に、風力発電には全国の中でもたいへん適しており、令和3年度の風力発電による発電量は日本一となっています。

県内では平成27年10月に国内最大級(当時)の太陽光発電施設(11万5千キロワット)が発電を開始したほか、令和2年4月からは国内最大級の風力発電施設(12万1千6百キロワット)が発電を開始しています。

さらに、地中熱や温泉熱を利用した冷暖房や融雪など、地域の特性に合った様々な再生可能エネルギーの活用が進んでいます。

再生可能エネルギーの導入が進むことで、化石燃料の使用と二酸化炭素の排出の削減につながる事が期待されます。

都道府県別 風力発電量ランキング(令和3年度)



ユーラス六ヶ所ソーラーパーク

新むつ小川原株式会社 提供



ウインドファームつがる

株式会社グリーンパワーインベストメント 提供

資料:資源エネルギー庁、県エネルギー開発振興課

# 青森で働こう！



青森県では、県産の安心な素材と自然な色にこだわった野菜のクレヨンを作るなど、魅力的な地域の資源やアイデアを生かして自分でお店を開く方のお手伝いをしたり、若い人に人気のある仕事であるゲームの開発を行っている会社を誘致するなど、働く場、生活する場として「選ばれる青森」を目指して、青森だからこそ、いろいろな仕事にチャレンジできる地域づくりに取り組んでいます。

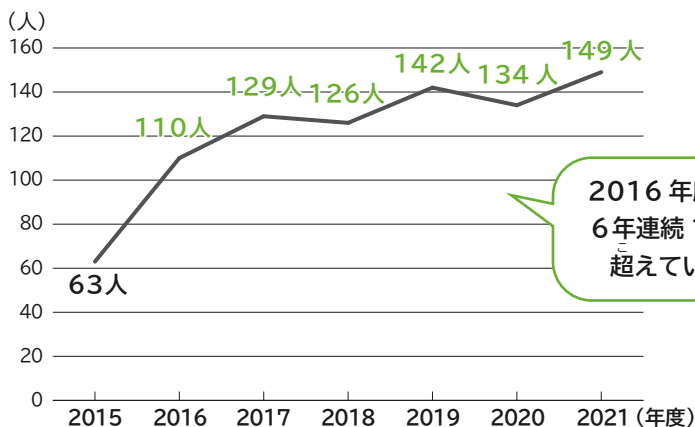


女性の創業をサポートする先輩女性起業家「あおりフルール」の皆さん

また、県内8市に創業支援拠点を設置して創業や起業を希望する人のお手伝いをしています。拠点を利用した創業者の数は2016年度から6年連続で100人を超えており、そのうちの4割近くが女性でした。



創業支援拠点を利用した創業者数



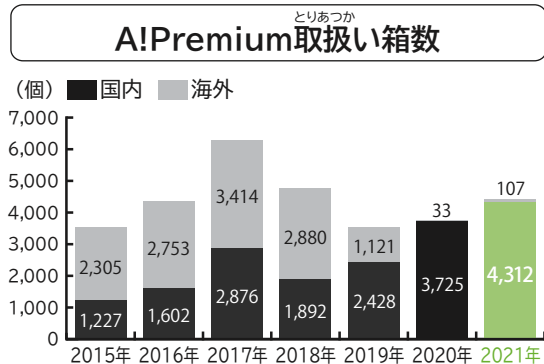
2016年度からは、6年連続100名を超えています！

A!Premiumは、青森県とヤマト運輸株式会社<sup>うん ゆ かぶしき ていきやう</sup>が提供する流通サービス<sup>とど</sup>（物を届けるサービスのこと）で、トラック輸送<sup>ゆ そう こうくう ゆ そう</sup>と航空輸送<sup>くわんくう</sup>を組み合わせ<sup>あは</sup>せて使い、主に西日本へスピーディー<sup>しん せん じやうたい</sup>かつ、新鮮な状態<sup>とど</sup>で県産品をお届け<sup>とど</sup>しています。

A!Premiumロゴマーク



A!Premium取扱い箱数



新型コロナの影響<sup>しん がた えいきやう</sup>を受け、2021年度も海外の利用は少なかったものの、国内は前年度比15.7%増の4,312個と堅調に伸び、2年連続で過去最多を更新しました。また、サービスを停止<sup>てい し</sup>していた海外輸送<sup>ゆ そう</sup>も、令和4年8月に再開しました。

国内が増えた理由の一つは、生産量全国第2位のホタテの取扱い<sup>とど</sup>が増えたことです。A!Premiumにより、生きたホタテをお届けできるようになったため、おいしさ・めずらしさから取引<sup>とりひき</sup>が増えています。また、取引の約8割は魚介類<sup>うり ぎやかい</sup>ですが、最近<sup>さい じん</sup>は肉や野菜、果物の需要もどんどん増えてきています。

青森県の地理的なハンディキャップ<sup>こく ふく</sup>を克服し、農林水産品の販路<sup>はん ろ</sup>を拡大<sup>かく だい</sup>していく、それがA!Premiumなのです。



愛知県の回転寿司店にてホタテ釣り。生きたままのホタテは珍しく、お客様にも好評です。

ホタテの握り。新鮮なのでひもも刺身で提供しています。



株式会社 コムライン 魚丸 提供

資料：県港湾空港課



# 青森のピカイチな祭り



青森ねぶた祭

同じく重要無形民俗文化財に登録されている「弘前ねぶたまつり」や2016年にユネスコ無形文化遺産に登録された「八戸三社大祭」、1998年に80年ぶりに復活し、20メートル以上の高さを誇る「五所川原立佞武多」等、エネルギー溢る祭りが青森の夏を盛り上げます。

青森では、四季折々に様々な祭りが開催されますが、最も有名なものが、重要無形民俗文化財でもある「青森ねぶた祭」です。東北三大祭りにも数えられ、ミラノやロサンゼルスといった世界の都市から招かれるなど日本を代表する祭りです。



弘前ねぶたまつり



八戸三社大祭



五所川原立佞武多

「ねぶた(ねぶた)」は他の祭りとは異なり、寺社が管轄する祭礼や儀礼ではなく、庶民の間で発生した行事であり、青森県の独自文化です。

イチおしミニあらかると

ご当地グルメを通じた「日本最大級のまちおこしイベント」である「B-1グランプリ」は、実は青森県が発祥の地！2012年の第7回B-1グランプリでは八戸せんべい汁研究所が、2014年の第9回B-1グランプリでは十和田バラ焼きゼミナールがゴールドグランプリを獲得しました！

青森県は、地域によって気候や文化、生活環境が異なることから、地域ごとに特色ある豊かな食文化が発達してきました。津軽地方は米、南部地方は雑穀、下北地方はイモなどを主体とした料理が多く作られるほか、沿岸地帯では豊富に水あげされる魚介類や海藻を使った料理が見られます。

主な郷土料理としては、もち米に赤しそやキャバツを入れて発酵させるご飯のつけもの「すしこ」や、大根やにんじん、山菜を細かく刻んでみそやしょう油で味を付ける「けの汁」、南部せんべいをだし汁で煮る「せんべい汁」、ホタテの貝殻を鍋代わりにして、だし汁にホタテなどを加えてみそや溶き卵で煮込む「貝焼きみそ/みそ貝焼」などが挙げられます。



すしこ



けの汁



せんべい汁



貝焼きみそ/  
みそ貝焼

# 青森の工芸品



青森県の伝統工芸品「津軽塗」は、弘前を中心とした津軽地方に伝わる堅く優美な外見を持つ塗物です。始まりは江戸時代元禄年間までさかのぼります。

青森県で唯一、国の伝統的工芸品として産業指定されていて、平成29年に本県初の重要無形文化財として技術指定されました。(漆芸分野での指定は人間国宝を除くと輪島塗(石川県)に次いで2例目です。)

また、青森のブナ材をテープ状に加工し、巻き重ねて形を作る工芸品の「ブナコ」は、美しい立体曲線を自在に表現でき、木材使用量も通常の10分の1程度です。ブナコのお盆・茶托・茶器を組み合わせた「Yauatcha Tea Set」はイギリスで賞を獲得し、ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館に永久収蔵されています。

南部菱刺しは、江戸時代に、八戸を中心とする南部地方で生み出されました。当時、農村の女性たちは補強と保温のために麻に木綿糸を刺して、厳しい北国の生活をしのいでいました。この技術が現在まで受け継がれており、麻地以外に木綿地やウール地も用いられ、ネクタイやタペストリーなど新たな製品にもその技術は応用されています。



つがるぬり  
津軽塗



ブナコ



なんぶひしざし  
南部菱刺し

世界遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」



縄文遺跡群  
ロゴマーク



「北海道・北東北の縄文遺跡群」は、1 万年以上もの間、狩りや漁、木の実などを採集しながら、ひとつの場所にとどまって生活(定住)した人々の暮らしやいのり・祭りの様子を伝える文化遺産で、2021年7月27日に世界遺産となりました。北海道・青森県・岩手県・秋田県にある17の遺跡で構成され、青森県には三内丸山遺跡をはじめとした8つの遺跡があります。

縄文時代は今から約1万5千年前に始まり、稲作が伝わる約2千4百年前まで1万年以上続きました。人々は、縄で模様を付けた土器や石器を使い、木の実や動物、魚や貝などを食べて暮らしていました。

自然に感謝し、自然と共に生きる縄文時代の暮らしには、現代に生きる私たちが学ぶべきことがたくさんあります。人類共通の宝として、世界遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」を私たちの手で守り、未来へ伝えていきましょう！

世界遺産 北海道・北東北の縄文遺跡群





## じょうもん い せき ぐん 縄文遺跡群のこれから



「北海道・北東北の縄文遺跡群」が世界遺産になったことで、県内の縄文遺跡群のすばらしさが広く国内外に知られ、多くの観光客が訪れることが期待されています。その一方で、縄文遺跡群を世界遺産として守り、未来へ伝えていくためには、遺跡周辺の景色を守ったり、地域住民が遺跡に親しみ、そのすばらしさに触れる機会を設けたりすることが必要です。そこで、青森県が行っている遺跡のすばらしさを伝える取り組みをいくつか紹介します。

### じょうもん い さん こう ざ 縄文“体感”世界遺産講座

県内の小中学生などを対象に、「縄文“体感”世界遺産講座」を開催しています。講座では、縄文時代のくらしや世界遺産について知り、本物の土器や石器、土偶などに触れることで、縄文時代の人々のちえや工夫を体感できます。この講座をきっかけに縄文遺跡群をより深く学び、そのすばらしさを多くの人に伝えてほしいと願っています。



じょうもん い さん こう ざ  
縄文“体感”世界遺産講座の様子

### い せき 遺跡で楽しめる体験やイベント



三内丸山遺跡では、1年を通して「土偶作り」や「まが玉作り」などが体験できます。また、縄文祭りなどのイベントでは縄文時代のしごとを体験できる「縄文ハンター」や、土器や土偶の発掘を体験できる「発掘ひろば」なども行われています。

青森県の縄文遺跡群では、遺跡のすばらしさを伝えるさまざまなイベントを企画していますので、ぜひ行ってみてください！



じょうもん はっくつ  
三内丸山縄文夏祭り「発掘ひろば」の様子